

内閣総理大臣 岸田文雄様

靖国神社春の例大祭における真榊奉納に抗議します

あなたは昨年秋に引き続き、靖国神社の例大祭において真榊を奉納しました。私費による支出と報じられていますが、鉢植えには「内閣総理大臣 岸田文雄」と明記されており、少なくとも公人たる内閣総理大臣として神道儀式に参加している印象を与えても差し支えない、あるいはむしろそう報道してもらいたいと考えているように拝察しました。

私たちキリスト者が公人による靖国神社参拝や真榊奉納、伊勢神宮における宗教儀式参加などに反対するのは、宗教的少数者としてのひがみによるものではありません。かつて自らも神社参拝を行い、隣国の教会に神社参拝を強要した過去を持つ私たちは、国家が特定の宗教と結びつくとき、その圧力に抵抗することがいかに困難であるかを身にしみ感じており、かつて自らの信仰を捨て去っただけでなく、隣人の信仰的苦悩をも顧みない国家の精神的奴隷に墮した教会の罪を、事あるごとに想起せざるを得ないためです。ことに、A級戦犯が合祀されるとともに、私たちの親しく覚える教会の牧師や信徒たちが本人や遺族の意志に反して合祀されている靖国神社に公人が参拝するたび、私たちは、痛みをもって、過去の過ちを思い起こします。あの過ちを繰り返さないために、私たちは、あなたがた公人によってなされる宗教的行為に、事あるごとに抗議せざるを得ないのです。

安倍晋三元首相は、アベノミクスによって導出された物価上昇と経済不況により、「皆さまの尊い犠牲の上に、私たちが享受する平和と繁栄がある」（2016年8月15日全国戦没者追悼式）とはさすがにいえなくなったようですが、本日靖国神社に参拝するにあたって「ウクライナにおいて祖国を守るために多くの人たちが命をかけて戦っている。勇気ある尊い犠牲の上に国は守られていく」と述べました。靖国神社は、主権者である私たちが犠牲にしてまで守るべき国家があるという幻想を生み出す装置です。私たちの享受すべき平和と繁栄は、ひとりとして犠牲者を生み出さない社会の実現であり、あなたがた政治家はそのためにこそ、主権者の信託を受けているのです。

あなたによる靖国神社例大祭における真榊奉納は、さっそく近隣諸国に「深い失望と遺憾」（韓国政府）を与え、「断固として反対し、厳しく非難する」（中国外務省）との抗議を招きました。靖国神社は、単なる宗教施設ではなく、近隣諸国に対して加害者であった戦死者を英霊として讃美する、戦争肯定のための施設であることを、改めて弁えて頂きたいと思えます。世界において戦争反対の気運が高まり、いよいよ平和と繁栄を追求すべきこのとき、あなたのなした行為が人類の進むべき道に暗い影を落としている現実を、アジアの人々も、私たちキリスト者も決して見過ごすわけにはいきません。そのことをお伝えしたく、抗議文をお送りした次第です。

2022年4月21日

日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会委員長 小塩海平